

武雄市行政改革プランの主な成果〔令和3年度〕

本市では、市民とともに次世代へつながる健全なまちづくりを目指すため、「行政サービスと資産を見直す」、「行政サービスのデジタル化を図る」、「市民とつながる 地域を活かす」、「職員の働き方と職場を変える」、「将来へ持続できる経営を目指す」を改革の戦略と位置づけ、令和3年3月に第4次行政改革プラン(令和3年度～令和7年度)を策定しました。

このプランに基づき、迅速に対応するコンパクトな組織体制、持続力ある健全な財政運営を目指し、行政改革の35の具体的な取組項目を定めて取り組んでいます。このたび令和3年度の進捗状況をまとめましたので、主な成果をお知らせします。

行政サービスと資産を見直す

民間力の活用

- ◆市民課窓口の住民サービスの向上、民間力の活用のため、令和3年10月から業務委託を開始しました。
- ◆住民サービスの向上のため、また、窓口の密を避けるため、令和3年12月から各種証明書等のコンビニ交付を開始しました。

公共施設マネジメントの推進

- ◆公共施設等個別施設計画に基づき、白岩球場、北方グラウンドを集約化し、武雄市民球場建設に取り掛かりました。
また、白岩体育館、北方西体育館についても集約化し、新体育館建設に取り掛かりました。

行政サービスのデジタル化を図る

行政手続きのデジタル化

- ◆各種規則の見直し等により、市民が記入する申請書類のハンコレス化を実現し、利用者の利便性を向上させました。

市民とつながる 地域を活かす

地域経済の活性化

- ◆佐賀県と連携して誘致活動を行い、武雄工業団地(若木町)に1社進出されました。
- ◆武雄市地域雇用促進協議会による官民一体となった雇用対策事業に取り組み、29名の新規雇用を創出しました。
- ◆JAや佐賀県と連携して、みどり地区トレーニングファーム事業に取り組み、3名(うち1名転入者)が新規就農されました。

職員の働き方と職場を変える

働き方改革の推進

- ◆新型コロナウイルス感染防止対策として、昨年に引き続きテレワークの利用促進を行いました。

定員適正化の推進

- ◆再任用職員の活用等により人員削減を行いました。（1名減）
- ◆安定した財政基盤の確立を図るため、「収納課」を設置しました。
- ◆新幹線開業効果を高めるため、「ハブ都市・新幹線課」を設置しました。
- ◆行政サービスのデジタル化を推進するため、企画部に「デジタル室」を設置しました。
- ◆文化のまちづくり構想整備と文化会館整備の検討を行うため、こども教育部に「新文化会館整備準備室」を設置しました。
- ◆2年で2回の災害を受け、治水対策を専門とする「治水対策課」を設置しました。

将来へ持続できる経営を目指す

歳出の抑制

- ◆職員数の減により、人件費を削減しました。 750万円
（*職員人件費については一人当たり年平均750万円で算出）
- ◆庁舎新電力の導入により、維持管理経費を削減しました。 120万円

自主財源の確保

- ◆まちづくり応援基金への積み立てを行いました。 積立額：4525万円
- ◆未活用資産を売却しました。 8110万円
- ◆基金を運用することで利子収益を生み出しました。 2925万円

公営企業・特別会計等の経営健全化

- ◆国保会計 国民健康保険基金への積立 8000万円
- ◆競輪事業 収益から一般会計への繰出 2億8000万円
競輪施設整備基金への積立 7億円

取組項目以外の実施状況

行政改革プランの取組項目以外でも、少子高齢社会において市民一人ひとりが自分らしく幸せに生きられる、将来にわたり活力ある地域を維持していくために、社会構造の変化に対応したサービスの拡充等を実施しました。

- ◆どこに住んでいても、高齢者が気軽に出かけられるようにコミュニティバス「ほんわカー」を整備しました。
- ◆子どもの医療費助成を高校生まで拡大しました。
- ◆昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、市民の困りごとに応じたきめ細かな公衆衛生対策や経済対策、生活支援を行いました。